

## 平沢(ひらさわ)地区

広沢と呼ばれていた。湯川と大川から支流だった応湖川が平沢の西でぶつかり波が立っていたので高瀬、合流し広くなっていたので広沢と呼ばれていた。その後、湯川も改修され、平らな沢になったことから「平沢」となる。曹洞宗国性寺は会津三十三観音札所十六番で御詠歌は

「参り来て 浮世をここに 忘れ置く 心及ばぬ 広沢の月」

### 平沢館跡

村の北には、『新編会津風土記』に館跡があり、室町時代には二国(新国)若狭が、三十七メートル四方の広さがあった。館跡近くには、「アラハバキ神社」がある。その神社の発祥は、青森県津軽地方で、製鉄集団の神社である。会津地方では、平沢と会津若松市湊町赤井にあり、南は埼玉県秩父まで分布している。

### 廣澤山国性寺(平沢地区)

曹洞宗。会津若松市北会津町常德寺の末寺。本尊は釈迦如来。檀家数は平沢地区外を含めて二十九戸。

『新編会津風土記』によると、文禄元年(一五九二)林郭という僧が草創したと伝えられている。境内に会津三十三観音の十六番札所の観音堂があり、一尺二寸の聖観音菩薩像を安置している



### 荒縄(あらはばき)神社(平沢地区)

氏子数二十四戸。祭礼は九月八日。宮司は田中稻荷神社。珍しい神で製鉄の神、足腰の神、客人神など諸説あつて縁起、伝承不明である。神社は、平安末から鎌倉時代頃に、青森県の津軽地方から伝わった製鉄の神で、会津には、湊町赤井と平沢の二ヶ所にしかない。古代史のロマンをも感じさせる神社である。

なお、鎌倉時代から室町時代前半頃までは、現在平沢集落北にある

「アラハバキ神社」の南側に集落があり、『会津鑑』を中心に「平沢館」があり、二国(のちに新国)氏が住んでいた。



文 永和地区地域づくり協議会会長 石田明夫

参考 「令和五年三月 永和の暮らしと歴史」 修正